

1. 卒業論文にのぞむもの

私たち教員一同は、皆さんにぜひ「達成感のある卒業論文を書いてほしい」と思っています。大学の4年間で、いろいろな経験をしたことでしょう。その中で、卒業論文をいくつかの大きなイベントの一つにしてほしいのです。歴史学の卒業論文は、卒業してすぐに役に立つものではありません。けれども、大学を卒業して10年くらいのあいだに、必ず、卒業論文を書くために学んだことが役に立つ瞬間がやってきます。私たちは、指導教員のアドバイスの意味を本当に理解する瞬間がやってくることを確信しています。

1) 「教師は、テーマを教えない」

私たちは、卒業論文の書き方を教えます。それを通じて、ある種の普遍的なスキルを伝えることができると考えているからです。けれども、テーマ（題目）を教えることはありません。いろいろな経験の中から、みなさん自分でテーマを見つけてください。私たちは、テーマは教えませんが、その見つけ方や勉強の方法を教えます。

2) 「自分だけが知っていることを書いてください」

これは、卒業論文のオリジナリティにかかわります。卒業論文は、「大レポート」ではありません。つまり、「自分だけが知っていること」＝創見を書くことが求められます。そのためには、新しい資料（史料）を使ったり、それまでとは違った見方でものごとを見るといいでしょう。

3) 「やりたいことと、出来ることには（残念ながら）、違いがある」

卒業論文で大切なことの一つに、「先行研究の整理」があります。これは、先人がどんな資料（史料）によってどんな見解を提出してきたのかを正確に知ることです。その上で、テーマを修正することになります。

結論を導くまでの過程が論文の構成や論証なのです。皆さんは、この過程で、残念ながら「やりたいことと出来ることは違うこと」に気づきます。この段階になったら、まず書いてみることを薦めます。

卒業論文は勉強したことを全部書くことではありません。先行研究をもとに、創見をぜひ書いてください。

4) 「よい論文をまねる」

卒業論文は形式が大切です。註の付け方や、資料などの引用の仕方にはきまったルールがあります。縦書きの論文と横書きの論文では、形式も異なります。卒業論文は、先行研究を「まねる」ことから全てがはじまります。そして、「先行研究の整理」のうえに、「新しい資料」や「新しい見方」を通じて「自分だけが知っていること」を書いてください。そうすると、十分に達成感のある卒業論文になることでしょう。

2. 論文の形式

① 卒業論文は、A4 サイズ、縦書きあるいは横書きで作成する。

文字数はゼミ教員の指示に従うこと。1 ページあたり 1100 字～1600 字程度を目安とする。使用フォントは、本文は明朝体 (MS 明朝、游明朝など)、見出しはゴシック体で、サイズは 10.5～11 ポイントであることが望ましい。英文で書くことも一つのチャレンジです。

② 表紙、中扉、目次をつける。

表紙は 11 月頃に担当教員が配布します。副題は中扉につける。目次はページ数もきちんと記入すること。

③ 文献表の作り方

必ず参考文献一覧 (表) をつけること。

詳細な書誌は文献表で示し、本文中での引用は [著者名字 発行年 : ページ数] あるいは [著者名字 『書名の一部』、ページ数] という形式での提示で済ませる。

「未見」の文献 (その存在は把握しているが、現物を見るに及んでいないもの) を含めても良いが、その旨を明記すること。

! 一次史料と二次文献を分ける。

史料の形式には、書籍として刊行されている物 (単行本) 以外に、文書、写本、新聞や雑誌などがあり、それぞれ必要な情報、書誌の形式がある。

一次史料と二次文献のそれぞれを、著者の名字の順番に並べる。

それぞれを、さらに日本語と欧文など、言語別に分ける記載方法もある。

日本語文献の並べ方は、アイウエオ順や、イニシャルのアルファベット順などがある。

書誌情報の記載方法

I 単行本、史料

例（漢籍、漢籍以外）

漢籍は、種類・分野によって表記法は若干違うが、著者、『書名』、巻、「文章名」、版本、巻・葉数が基本である。

（例）『高宗純皇帝実録』1118 卷、乾隆 45 年 11 月上、第 2 版、中華書局、2008, pp. 931-1.

実録は編者をしるさないのので、『書名』から始まる。

編年体の歴史書などには文章名はなく、巻と日付を明記することが多い。

この場合、「中華書局、2008」と参照した文献のバージョンを書いている。書かない場合もあるが、あったほうがよい。

漢籍以外は、ロシア語やアラビア語など、英語以外の言語の場合でも、アルファベット転写することが多い。著者、書名、校訂者、出版地：出版社、出版年が基本。

Rizq Allāh Mushtāqī. *Wāqī'āt-i mushtāqī*. (ed.) I. H. Siddiqi, and W. H. Siddiqi. Rampur: Raza Library, 2002.

アルファベットを用いて書誌を記載する場合、書名はイタリック（斜体）にする。

II 単行本、研究書

著者名（名字名前）、出版年、『書名』、（出版地）：出版社。

例（邦文、英文）

近藤治、2003、『ムガル朝インド史の研究』京都大学学術出版社。

Robinson, E., 2007 *The Mughal Emperors and the Islamic Dynasties of India, Iran and Central Asia*. London: Thames & Hudson.

III 論文集掲載論文

著者名、出版年、「論文名」、編者、『書名』、出版社、ページ数。

例（邦文、英文）

真下裕之、2007、「デリー・スルターン朝の時代」、小谷汪之（編）『世界歴史大系 南アジア史 2』山川出版社、102-144 頁。

Gaborieau, M., 1986, The Ghazi Miyan Cult in Western Nepal and Northern India. In: Muhammad Waseem (tr. and ed.) *On Becoming an Indian Muslim: French Essays on Aspects of Syncretism*. New Delhi: Oxford University Press, pp. 238-263.

IV 雑誌掲載論文

著者名、出版年、「論文名」、『掲載誌名』、巻号、ページ数。

例（邦文、英文）

高橋晃一、2011、「大乘仏教のヴァルナ観に関する一考察」『南アジア研究』、23 号、31-50 頁。

Chen, S., 1998, Some remarks on the Chinese “Bulgar.” *Acta Orientalia*. vol. 51 nos. 1-2, pp. 69-83.

V 新聞記事

署名記事の場合

執筆者、発行年、「記事名」、『新聞名』、発行月日。

無記名記事の場合

『新聞名』、発行年、「記事名」、発行月日。

VI 文書

作成者（作成機関）、作成年月日、「文書名」、所蔵機関。

#時代地域、所蔵状況によって差異が大きい。

例：書籍収録のムガル朝文書

Yaddāsht (Jahāngīr), 1st Jumādā II 1049AH/ 19th September 1639AD, Daftar-i Dīwān, Hyderabad-Deccan. (Published in: *Selected Documents of Shāh Jahān's Reign*. Daftar-i Dīwān: Hyderabad-Deccan, 1950, p. 76 No. 34)